

# 自治協ニュース

第0305号  
発行者  
八本松住民自治協議会  
R03. 11. 20

## 多くの人たちに上を向いてもらうために 2021酒まつり シークレット花火

### 八本松小学校新グラウンド落成を祝う

撮影者 八本松中央地区 西原英実さん

10月31日(日)の19時すぎ、東広島市内全域の9町から一斉にシークレット花火が打ち上げられた。このイベントは「酒まつり実行委員会」(実行委員長 名井崇真)が主催したもので、ウイズコロナ時代の新しい試みとして実施されたもの。八本松地区では、八本松住民自治協議会がこのイベントに協賛し、昨年より多い花火が八本松小学校新グラウンドに準備され、八本松消防団等による花火師付近の自主警備や安全対策がとられ打ち上げに備えた。



警備に当たった八本松消防団の皆さん

また、打ち上げ前のオープニングでは、八本松集会所に設けられた特設スタジオ(八本松中央自治会による)から、酒まつり実行委員が「本日



八本松集会所に設けられた特設スタジオ

日は、酒まつりの一環として住民の皆さんに元気を演出してもらう花火の打ち上げです。また、八本松では小学校新グラウンド落成のお祝いとして、八本松地域からたくさんのご協力をいただき盛大な花火になると思います」と町内に拡声器で紹介した。

花火は、定刻の午後7時15分、大きな爆音とともに新グラウンドから発射。4号玉や3号玉など158発の鮮やかな花火が晩秋の夜空に次々と打ち上げられた。特にエンディングの

つり実行委員が「本日は、酒まつりの一環として開始された小学校のグラウンドの落成に花を添えた。

打ち上げ終了後、このイベント開催に奔走した八本松自治協の常光聡自治会部会長は、「今回は、球数も多く皆さん満足されたことと思う。準備に大変でしたが無事に終わってほっとしている。今後も地域との連携でイベントが開催され、地域の活性化につながるよう願っている」と語った。

大山ハイツ自主防災会 防災訓練  
避難所の自主運営・机上で体験

大山ハイツ自主防災会(会長 浅藤 尊)は10月17日(日)、八本松西集会所で防災訓練を行った。今年度は、新型コロナウイルス感染症防止のため役員を対象にした訓練で、市社会福祉協議会の担当者を招き、避難所の自主運営訓練(避難所運営ゲームHUG)を行ったもの。



避難所机上訓練する参加者

最初に市社会福祉協議会企画福祉課の景山さんからこの訓練の留意事項(正解はない、お互い批判はしない等)について説明があり、24人の参加者が5班に分かれゲームを行った。班の皆さんは、次々に出される様々な事情を抱える避難者の到来に、どこに入ってもらおうか活発な意見が交わされ、机上の平面図に避難者を配置していた。

また、市社会福祉協議会地域福祉課の中東さんは、「西日本豪雨での避難生活で、困っていた時に同じ避難者から助けの手を差し伸べられる大変助かった」と自身の体験談を話した。最後に、浅藤会長は、「皆さん避難所運営の難しさを体験されたことと思う。避難所に行かれた時は、お客様にならないで気が付いたことをお手伝いするよう心がけてください」と話し、防災訓練を終了した。

民有林直轄  
治山事業説明会

# 本年度 治山ダム1基、山腹工2カ所、流路工1ヶ所

林野庁山地災害復旧対策室  
県西部農林水産事務所  
市建設部

## 令和10年度までに 治山ダム18基 山腹工3.5ha

### 森林を復活させることで山地災害を防止

### 参加者からは切実な要望

11月3日(水)、林野庁近畿中国森林管理局広島森林管理署山地災害復旧対策室、県西部農林水産事務所、市建設部は、地域センターで八本松西部地区住民の皆さんの参加(12人)を得て、民有林直轄治山事業の進捗状況と今後の計画について地元説明会を開催した。



計画を説明する澤井室長(林野庁)

この事業は、農林水産省(林野庁)が広島県知事の要請を受け、令和元年度から10年計画で西日本豪雨で甚大な土砂災害を起こした曾場ヶ城山北斜面の渓流等の荒廃地を対象に国直轄の治山事業が進められているもので、

令和元年度の災害復旧事業を合わせると現在五つの渓流の最下流部に5基の治山ダムが設置されている。

説明に当たった山地災害復旧対策室の澤井室長は、「この治山事業は、総事業費13億1千万円で、18基の治山ダムと3.5haの山腹工(緑化と土留め)等を設置し、森林を復活させることで山地災害を防止するものです」と全体計画を説明。

また、今年度事業について、「治山ダム1カ所(③)渓流の最下流部)、流路工1ヶ所(④)渓流の最下流部)、山腹工2

カ所(⑤)、⑥)渓流の荒廃地)の計4カ所で工事を実施する計画で事務を進めており、年明けには着工の予定」と今年度の進捗状況を説明した。

更に、令和4年度事業について、「治山ダム1ヶ所(⑨)溪流・記念池 3基目のダム)、山腹工1カ所(⑧)渓流の荒廃地)の工事を行う予定」と現在の計画を説明した。

説明後、参加者から、「(1)工事の付近の遊歩道にかかる問題に対し治山事業等でのどのような対応ができるか検討してもらいたい。(2)行政各機関の更なる連携で

遅滞なく効率的に事業を進めてもらいたい。(3)治山ダムに堆積した土砂が除去できれば住民は安心で

きる。(4)宗吉団地を襲った土石流の渓流(⑩)に2基目の治山ダムが新規に計画され有難い、早

めの工事をお願いする」との切実な要望が出され、関係機関で対応を検討することとなった。

### 令和3・4年度の工事予定について



山地災害復旧対策室提供資料を基に作成